

ILCAA



仏語圏

アフリカ手話/モンゴル語/トゥヴァ語

世界の異なる文化や社会をきちんと理解するには、その土地のことばをしっかりとマスターすることが大切です。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)では、アジア・アフリカのさまざまな国や地域での調査研究や、専門的な活動を支援する現地語の研修を実施しています。1ヶ月に100～150時間の集中講義は、日本の専門研究者と母語話者が、共同でレッスンにあたることを特徴としています。母国での日常に輝くことばの生命を、じっくりと身につけてみませんか。

- フランス語圏アフリカ手話 2008年8月4日～2008年9月5日(100時間) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- モンゴル語 2008年8月4日～2008年9月5日(125時間) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- トゥヴァ語 2008年8月4日～2008年9月4日(125時間) 大阪大学世界言語研究センター(箕面キャンパス)

[募集期間] 2008年5月1日[木]～2008年6月20日[金]

[募集人数] 各言語とも10名程度

[問合せ先] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究協力課全国共同利用係

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 E-mail: kenkyu-zenkoku@tufs.ac.jp TEL: 042-330-5603

[協力] 大阪大学世界言語研究センター

*詳細についてはアジア・アフリカ言語文化研究所のホームページをご覧ください。URL: <http://www.aa.tufs.ac.jp/>



Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

アジア・アフリカ言語文化研究所
2008年度 言語研修生募集

■言語研修の目的と特色

アジア・アフリカ言語文化研究所では、アジア・アフリカ地域での現地調査研究やその他の専門的業務に役立たせることを目的として、現地語の会話・読み書きなどの基礎学習を中心とした言語研修を短期集中的に実施しています。この研修は日本の専門研究者と母語話者がいっしょに教授にあたる「生きた言語教育」を特徴としています。

■これまでの実施言語

ベンガル語、アムハラ語、ヘブライ語、スワヒリ語、福建語、チベット語、カンボジア語、ペルシア語、バリ語、マラーティー語、広東語、タイ語、トルコ語、ハウサ語、ビルマ語、ネパール語、アラビア語エジプト方言、モンゴル語、バシウト語、ヒンディー語、フィンランド語、ハンガリー語、ヨルバ語、インドネシア語、エストニア語、グルジア語、テルグ語、フィリピン語(タガログ語)、西南官話、タミル語、中原官話、ベトナム語、アフリカンス語、ウロフ語、アイヌ語、フィジー語、福州語、ネワール語、マダガスカル語、スンダ語、中国語普通話、フルフルデ語、ハヤ語、シャン語(文語講読)、パンジャーブ語、シンハラ語、上海語、カンナダ語、ウルドゥー語、ムンダ語、カザフ語、サハ(ヤクート)語、リンガラ語、朝鮮語、現代ウイグル語、マレー語、広東語

フランス語圏アフリカ手話 (東京会場 100時間 10名程度 受講料:60,000円)

●フランス語圏アフリカ手話は、西・中部アフリカのフランス語圏の国々にのろう者たちの間で広く話されている手話言語です。ルーツはアメリカ手話ですが、アフリカでのろう者たちによる教育事業の中で変容し、フランス語の特徴も加わったこの新しい手話が成立、普及しました。食文化関連など、アフリカ固有の手話単語が数多く含まれていることも魅力のひとつでしょう。本研修では、カメルーン東部(フランス語圏)方言に基づいてこの手話を学ぶこととします。

[講師のことは]「ボンジュール(こんにちは)」。カメルーンから来日するろう者の講師とともに、アフリカの生きた手話会話を身につけましょう。授業では日本語と日本手話を用いますので、耳の聞こえる方も聞こえない方も受講していただけます。



■講師
Evouna Etoundi Henri (カメルーンろう者キリスト教協会 会長)
亀井伸孝 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 非常勤研究員)

■文化講演
ニクソン・カキリ (Voluntary Service Overseas -VSO)
宮本律子 (秋田大学教授)
永井弓子
加藤嘉文 (和歌山県立みくまの養護学校 教諭)

モンゴル語 (東京会場 125時間 10名程度 受講料:75,000円)

●モンゴル語は、モンゴル国をはじめとし、中国内モンゴル自治区、遼寧省、黒竜江省、青海省、新疆ウイグル自治区などの広い地域に分布する言語です。また、ロシア連邦ブリヤート共和国で話されているブリヤート語、カルムイク共和国で話されているカルムイク語も広い意味でモンゴル語系に含まれる言語です。

[講師のことは] 講師の3人が全てモンゴル人というユニークな授業です。会話を中心に皆で楽しく勉強しましょう。



■講師
呉人徳司 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授)
富川力道 (和光大学 非常勤講師)
デルゲルマー・フンビシ (国際モンゴル学院 学院長)

■文化講演
未定

トゥヴァ語 (大阪会場 125時間 10名程度 受講料:75,000円)

●トゥヴァ語は、ロシア連邦の南シベリアに位置するトゥヴァ共和国を中心に、モンゴル国や中国西北部にまたがって暮らすトゥヴァ人によって話されているトルコ系言語(チュルク語)です。他のチュルク語同様、文法構造は基本的に日本語と同じく、主語-目的語-述語の順に「てにをは」に当たる格語尾を用いながら、動詞を活用させて文を構成するという膠着型の言語で、日本人には比較的なじみやすい言語と言えます。

[講師のことは] 皆さんは、モンゴルの北西部、南シベリアのトゥヴァ共和国を中心に暮らすトゥヴァという民族をご存知でしょうか?私たち日本人にとっては一見なじみのない名前ですが、同じくモンゴロイド系人種で、懐かしい顔立ちをした仏教を信仰するトルコ系遊牧民族です。今回のトゥヴァ語研修は、そんなトゥヴァからネイティブの講師を招き開催する初めての試みです。一緒にトゥヴァへの扉を開きましょう。



■講師
高島尚生 (大阪大学外国語学部 非常勤講師)
藤家洋昭 (大阪大学世界言語研究センター 准教授)
中嶋善輝 (大阪大学世界言語研究センター 講師)
ダンバー・オクサーナ・ヴァシリーエヴナ
(トゥヴァ国立トゥヴァ共和国政府人材育成・能力向上大学 副学長)

■文化講演
等々力政彦 (トゥヴァ民族音楽演奏家・研究者)

05年シンハラ語・ベトナム語・ヒンディー語研修



06年リンガラ語・サハ語・朝鮮語中級研修



07年現代ウイグル語・マレー語・広東語研修



現地調査研究や専門的業務に活かせる「生きた言語教育」
母語話者と専門研究者による集中レッスン

【会場案内】

■フランス語圏アフリカ手話研修会場
■モンゴル語研修会場

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

○JR中央線「武蔵境」より西武多摩川線に乗り換え、「多磨」駅下車、駅より徒歩5分。

○京王線「飛田給」駅北口より「多磨駅」行きバス乗車「東京外国語大前」停留所下車、停留所より徒歩2分。

■トゥヴァ語研修会場
大阪大学世界言語研究センター(箕面キャンパス)
〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

[大阪モノレール]
○「彩都西」駅下車 西へ徒歩約15分

[阪急バス]
○「千里中央」駅発「阪大外国語学部前行」、「間谷住宅行」
○「北千里」駅発「阪大外国語学部前行」、「間谷住宅行」
「阪大外国語学部前」、「間谷住宅4」下車

【問い合わせ先】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
研究協力課全国共同利用係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
E-MAIL: kenkyu-zenkoku@tufs.ac.jp
TEL: 042-330-5603

詳細についてはアジア・アフリカ言語文化研究所のサイトをご覧ください
URL: <http://www.aa.tufs.ac.jp/>